



同じ人間だもん大事だよねって考えたら、
わかり合えるんじゃないかしら

歌手
石川ひとみさん

『まゆぶせ』の大ヒットで、NHKの紅白歌合戦にも出場した石川ひとみさん。幅広い芸能活動を展開するなか、B型肝炎を発病、闘病生活を経て、見事芸能界に復帰されましたが、現在ではその経験をもとに講演やファミリーコンサートなどを積極的に行っています。アイドル時代と変わらぬ、さわやかな笑顔で、病気を機に体験したこと、感じたことについて語っていただきました。

発病、入院、療養。1年後の京都での舞台が自信のきっかけに

発病したのはデビューして10年目。ある朝、すごいめまいがして病院に行ったんですね。実は私の場合、赤ちゃんのときに感染してB型肝炎のキャリアだったんです。お医者さんにそれを伝えて、調べてもらったら発病してたわけです。

その時ちょうど、ミュージカルの舞台の稽古中で、初日まであと1週間か10日というときでした。周囲の人は大変だったと思います。でも仕事のことは何も言わずに、元気になることが一番だって言ってくれて。すぐ入院しました。

入院生活は40日、肝臓では短い方です。退院してからもしばらくは安静にしていなければならないので、その後はお世話になった事務所を辞めて、自宅で療養していました。出かけるのは病院だけという暮らしです。そんな暮らしが1年ほど続いたころ、京都での舞台のお話がきたんです。

出してみようと思った。まるまる1年間体を使わずに暮らしていたのですが、自分を試してみたかったんです。主治医の先生に相談したところ、「この病気は一生付き合っていかなければならない病気だから、ある時は自分に挑戦することも必要。ずっと怖がっているのは一歩も進むことはできないからね。」と勇気づけてくださって、薬を持って万全の体制で望みました。結果、無事に1カ月の公演を努め上げることができました。できた！ という喜びとともに、体力的にも精神的にも大きな自信になりましたね。

プールで感染する？ はじめて知った誤解と偏見

この公演の後は、体を休めるために3カ月近く自宅療養しました。そのころです。はじめてこの病気のことと誤解や偏見があると知ったのは。それまでは病院の行き来だけの狭い世界にいたので、まったく感じたことはなかったんですが……。

ある時、体力をつけようと通い始めたスイミングスクールで、幼児クラスの父兄の方から「子どもが感染するのでは」というクレームがあったんです。その時はインストラクターの方々が「プールで感染しません」と強く言ってくれましたが、その他にも、握手をしたり一緒に食事したりすると感染すると思っている人がいたり……。

それを知った時、「えっ、なんで？」って悲しいと思う前に、まず驚きがありました。それは、ショックで悲しかったですよ。でもその一方で、背中に1本筋が入ったよう

な気がしたんです。違いますよ！ そんなことでは感染しませんよ！ これではいけない、堂々と胸を張って生きていかなきゃ、と強く思いました。

B型肝炎は主に血液で感染する病気で、食事やプールやお風呂など、普通の生活の中で感染する病気ではないのです。それに今はワクチンがあるので、出産もできるし、赤ちゃんが感染することもないんです。

私はたまたま歌の仕事などとしていて、この病気のことをお話したり本に書いたりする機会がありました。これからも病気についての誤解を解いていきたいと思っていますし、そういう機会をいただけることがありがたいなっています。



「変わらない人たち」とのふれあい そして生きる喜び

こんな体験をしながらも、病気をしたこととよかったことやうれしかったこともあるんです。人間としての価値観、生きている意味、当たり前だと思っていた健康のありがたさ、生きていることの素晴らしさをしみじみと感じられたこともそのひとつです。

それと病気をしたこと、変わる人、遠ざかっていく人などいろんな人がみえましたけど、「変わらない人」の心にふれたことは大きな喜びです。こういった周囲の人に支えられてやってこれたのです。7年前に結婚した夫もその一人。デビュー当時から音楽スタッフとして一緒にやってきた仲間なのですが、闘病中も今も、言葉も表情も空気も変わらないんですよ。本当にありがたいです。

いろんな方にお話を聞くと、病気のことを友達にも親にも言えずに悩んでいる方がいます。結婚がしたくなるので恋をするのが怖いという方もいます。病気やハンディを持

った人にとって、親でも友達でも恋人でも、コミュニケーションをとれる相手がいる、理解してくれる人がある、ということはとても心強いことなんです。まわりの人も病人以上に相当つらいと思います。でもこのまわりの人たちが病人やハンデをもつ人にとってどれほどの支えとなっているのか。一人じゃないんだ！と思えることがどんなに力をくれるのか。周囲の人にお礼とともに伝えたいですね。私が前向きに考えることができるようになったのも、周囲の人の生き方、考え方に触れて、長い時間かけて少しずつ積み重ねてできるようになったんです。もっとがんばろう！体は病んでも気持ちまで病みたくないからねって。

お互いの気持ちを思いやる 余裕をもつことが第一歩

病気になる前は明日があって当たり前。正直、差別や偏見についてあまり考えたことはありませんでした。自分が病気になる、そういう立場に立って初めて、その悔しさを知りました。悔しさ、悲しみ、辛さ。病気によっていろんな感情を体験しました。でも今では、病気で失ったものよりも得たものの方が大きくて、失ったものなんか思い浮か



石川ひとみ（いしかわ・ひとみ）
『右向け右』で歌手デビュー。その年のおもな音楽祭で賞を総なめにし、81年に『まちぶせ』の大ヒットでNHKの紅白歌合戦に出場を果たす。その後、NHKの人気歌謡番組『レッツゴーヤング』の司会やアニメの声優など、幅広く活躍。87年にB型肝炎を発病し、闘病生活を経て芸能界に復帰。その経験をもとに自叙伝『いっしょに泳ごう』を出版。昨年は音楽家である夫とともに、子ども向けのアルバム『HOME・MADE - ただいま - 』を発表。ファミリーコンサートや講演活動などを中心に活躍中。

べられないほどなんです。この体験が私の血となり肉となり、なにかの力になるんじゃないかと思っています。

差別や偏見をなくすのは難しいことと思われがちですが、できるだけお互いのことを理解しようという気持ちを持っていることが大事なのではないでしょうか。わからないから別に理解し合わなくていいやと思えば、自ずと態度だって変わってしまうでしょうし、知ろうという積極性があれば、だんだん自然に接することもできると思います。自分がこんなことされたら嫌だな、と思うことはしなくなるだろうし、うれしいなと思ったらきっとしてあげたくなるし。自分が大事なように、同じ人間だもん大事だよなって、お互いの気持ちを思いやる余裕を持つことが第一歩なんじゃないでしょうか。個々の心の持ち方がそうになっていけば、誤解もなくなり、差別や偏見も減っていくと思います。

最近、子ども向けの番組をやったことをきっかけに、子どもたちや家族に向けて歌いたいと、昨年、夫と一緒に『HOME・MADE - ただいま - 』というアルバムをつかって、ファミリーコンサートをしています。またこういうアルバムをつくりたいし、健康や病気についての講演の方も今まで通り続けていきたいですね。いろんなチャンスにいるんな方とお会いして、理解を深めていけたら幸せです。



特集

最近、 子どもたちの笑顔、 見ましたか？

子どもの権利と児童虐待防止法施行

この11月、児童虐待防止法が施行されたことをご存じでしょうか。その背景には、児童虐待が社会問題化しているという現実があります。京都市児童相談所でも、平成11年度に受理した児童虐待の相談件数は123件。前年度の約2倍になっています。なぜ虐待があとをたたないのでしょうか。その原因として、核家族化、地域の育児力の低下などがいわれますが、根底にあるのは「子どもの権利」に対する社会そのものの誤解や、認識不足があります。幼い命さえ奪う「虐待」。その悲劇を防ぐために、何ができるのか……。その一歩として、子どもの権利について一緒に考えてみませんか。



子どもの権利には2つの種類があります。

受動的

子ども期であるがゆえに必要とされる権利保障があります。つまり、子どもが親の保護なしには自立できない存在であることから生じる「...育てられ」「...守られる」という「受動的権利」です。



能動的

子どもが安心して、自信を持って、自分の意志で自由に幸福を追求できる「権利」です。そしてそれはたとえ子どもであっても、子どもである前に、ひとりの人間として保障される権利です。

人には人が生まれながらにして当然持っている権利「基本的人権」があります。しかしながら、日本では子どもを弱者ととらえるあまり、子どもに対する支配、管理、拘束、保護が優先され、その基本的な権利の重要性が十分に自覚されていませんでした。その結果、いきすぎたしつけが暴力となって表面化してきたのです。

また「子どもの権利」と聞くと、「親に養われている身

で.....」とか、「そう言って子どもを甘やかすから、いまの子はダメになる」と拒否反応を起こす人もいます。

しかし、大人であろうと、子どもであろうと『暴力』のあるところに安心はありません。「子どもの権利」とは、子どもたちが安全に安心して、笑顔で暮らせる権利にほかならないのです。

「児童虐待防止法」について

子どもの権利をもっとも侵害するのが「児童虐待」です。

「児童虐待防止法」では、児童虐待を、18歳未満の児童に対する

- 身体的な暴行
- わいせつな行為
- 著しい食事制限や長時間の放置
- 心理的外傷を与える言動

と定義します。は、欧米ではネグレクトと呼ばれる行為で、保護の怠慢や遺棄によって、子どもの健康や安全を損なう状態をいい、家に閉じ込める(学校に行かさない)、乳幼児を残したままたびたび外出するなどの行為を指します。

例えば自動車の中に乳幼児を放置し、親がパチンコに熱

中、その間に子どもが死んだという事件もこの範ちゅうに入ります。

もちろん、これまでも児童福祉法の28条に「児童虐待」に関する記述はありましたが、今回の法律で「虐待」の定義づけがなされたことは、大きな前進です。

さらにこの法律では、児童相談所が虐待を疑われる児童の自宅に立ち入り調査をする際、警察官の協力を求めることができるなど児童相談所の権限が強化されています。また、教師や医師など子どもにかかわる職種の人の通告義務も明記され、児童虐待の早期発見と防止に一步踏み込んだものとなっています。

虐待の多くは、家庭という密室で、抵抗のできない子どもに向けて行われます。児童虐待防止法がその抑止力となることに、大きな期待がかかります。

虐待に気づいたらすぐ連絡を

では、どうすれば虐待を受けている子どもたちを救えるのでしょうか。京都市の相談窓口として京都市児童相談所を訪ねてみました。

虐待に気づいたら.....

「ともかく児童相談所や地域の子ども支援センターなどに連絡してください。緊急性の高い場合は、親の同意を得ず、職権で子どもを一時保護することもあります」

たとえば、継父から身体的虐待を受け、背中にたばこの火をおしつけられたような跡や、顔になぐられたような青アザがあった4歳の男児のケースでは、保育所から連絡を受けた児童相談所の職員が、児童本人に保育所で会って虐待を確認。母親と話し合いを持って、一時保護に。

また、父親から性的ないたづらをされていた中2の女児のケースでは、本人からの通報を受け、母親に連絡。母親と本人、児童相談所の職員の話し合いの過程で、母親が本人の苦悩を理解。父親と離婚し、母子で再出発ということになりました。

通報を知られたくない.....

「近所との関係が気まづくなったら困る、おせっかいと思われたくないという事情はわかります。連絡者の秘密は必ず守られますので、子どもとその家族の痛手が少しでも軽いうちに対処できるよう、気づいたらすぐに連絡してください」

「児童虐待はすべて応用問題。マニュアルで解決できるものはありません」と相談所の職員。未来を支える子どもの権利を守るためにも、勇気を持って通報してください。

虐待をする自分にどうしていいかわからない...

「親の叫びとして、親自身からの訴えも増えています。虐待をする親はひどい親と思ってしまうがちですが、親自身も子育てや家庭の問題で悩んでいたり、地域で孤立している場合があります、そのストレスが子どもに向けられていることも少なくありません」

お母さん、お父さん、ひとりで悩まないください。親だって泣きたいときもあるんです。そんなときは、児童相談所やこどもみらい館などの相談機関にまずは電話をしてみてください。だれかに話すだけでも、気持ちが軽くなります。

児童相談所は18歳未満の児童に関するあらゆる相談を受ける機関です。京都市児童相談所の場合、児童虐待だけでなく、発達の問題や不登校など、年間約3000件の相談を受けています。

子どもの明るい笑顔のある安心できる社会を築くため、家庭や地域、学校、医療機関などの社会全体で連携した支援が求められています。

あなたの悩みまずはここへ【相談はすべて無料です】

京都市児童相談所
☎ 801-2929

こどもみらい館
☎ 254-8993(来所予約)
☎ 257-5560(電話相談)
受付/9:00~20:00
(日・祝日は17:00まで)
火曜休館

24時間子どもなんでも相談
「積慶園」☎ 392-8787

24時間子どもなんでも相談
「平安養育院」☎ 561-3039

子ども支援センター(福祉事務所)
北区 ☎ 432-1181
上京区 ☎ 441-0111
左京区 ☎ 771-4211
中京区 ☎ 812-0061
東山区 ☎ 541-8315
山科区 ☎ 592-3050
下京区 ☎ 371-7101
南区 ☎ 681-3111
右京区 ☎ 861-1101
西京区 ☎ 381-7121
・洛西支所 ☎ 332-8111
伏見区 ☎ 621-6660
・深草支所 ☎ 642-3101
・醍醐支所 ☎ 571-0003
月曜~金曜/9:30~16:00

子どもの人権110番
☎ 231-2000
毎週月曜/13:00~16:30

子どもの権利110番(京都市弁護士会)
☎ 231-2335
毎週金曜/15:00~17:00

親と子のこころの電話
☎ 801-1177
月曜~土曜/10:00~16:30
(第2・4火曜・日曜日は休み)

温もりの電話
☎ 212-0300
月曜~金曜/10:00~15:00

連絡いただいた方の名前や住所などの秘密は法律によって守られます。

人、輝いてます！

キムチやテコンドーなど、最近では韓国・朝鮮の文化に触れる機会が多くなっています。でも、本当の意味の文化交流って何でしょう？今回は、在日韓国・朝鮮人と日本人がともに集う「東九条マダン」を通して、民族・文化の枠を超えた地域共生を目指す朴さんの取り組みを紹介します。

「マダン」とは韓国・朝鮮語で「広場」を意味する言葉です。在日韓国・朝鮮人と日本人が一つの踊りの輪に参加し、自ら発見し創り出す民衆文化をはぐくんできて、今年で8回目を迎えた「東九条マダン」は、こうした願いを込めて開催される民族交流のお祭り。ケンガリ、チャンゴなど韓国・朝鮮の伝統的楽器を奏でるブンムルノリ（農楽）や民族劇のマダン劇、相撲大会などが行われるほか、たくさんの模擬店が出店され、会場は朗らかな笑顔とあふれんばかりの熱気に包まれます。

中でも、サムルノリという韓国・朝鮮の楽器と日本の和太鼓の競演は、民族交流・共生の願いを音楽で表現したもの。独自のリズムを持っているそれぞれの楽器の個性を尊重しながら、一つの音楽を作り上げていくことによって、在日韓国・朝鮮人と日本人の融合を象徴しているのです。

「ありのままに生きることの難しさに悩む「在日」の人たちにとって、自分らしさを見つめ直す大切な自己解放の場になれば」と話すのは、在日二世で東九条マダン実行委員長を務める朴実（パクシル）さん。かつて朴さん自身も、日本人女性と結婚し、日本国籍を取得するために日本名を名乗らなければならず、自分の立場に負い目を感じたこともあったとか。子どもたちには誇りを持って生きてほしい。結婚を機にそう決意した朴さんは'87年、2度目の申し立てでようやく本来の民族名を取り戻すことができたといいます。

「民族名を名乗っているだけで、就職や住居探しなど敬遠されることも多い。日本人と韓国・朝鮮人がと



東九条マダン実行委員長 朴実さん

東九条マダンで 民族、世代を超えた 文化交流を実現

もに暮らしていくために、時間をかけて理解し合う必要があります」。偏見や誤解を恐れず、あえて民族名にこだわるのも、次世代に正しい歴史と文化を伝えていきたいから。たとえば、息子さんが小学校のときに図書館から借りてきた児童書には、「豊臣秀吉の朝鮮征伐」と書かれていたそうです。こうした誤解を招く表現が社会にあふれていることを知った朴さんは、奥さんと仲間で、日本語で書かれた韓国・朝鮮の児童書を作成し、地域の学校や図書館に配布したこともありました。

「すでに戦後50年以上が経過し、在日三世、四世が約半数を占める中、韓国・朝鮮の文化と日本文化を持つ彼ら彼女らにとってもはや日本人、韓国人、朝鮮人という区別自体が意味を持たない。差別するもの、差別されるもの双方が本当の自由であり得ないということを理解してこそ、地域社会の共生の姿が見えてくるのではないのでしょうか」と朴さんはおだやかに話します。

朴さんはマダンの活動以外にも、京都まつりや崇仁地区のふれあい祭、小中学校での講演など、在日の仲間とともにさまざまな交流イベントに参加しています。韓国・朝鮮に伝わるハンジ紙を使ったアートや伝統衣裳のパチ・チョゴリ作り、マダン劇や伝統楽器の指導などは、日本の子どもたちにも大人気だそうです。

在日韓国・朝鮮の人たちと日本人が、ともにチャンゴをたたき、キムチを食べながら民族共生のあり方を考えていく。朴さんを先頭に、東九条マダンを中心とした交流の輪は地域社会の中でますます広がりを見せています。



11月3日に行われた東九条マダン
伝統舞踊など民族交流がくり広げられた

お問い合わせ先
東九条マダン実行委員会
事務局 / TEL/FAX 075-661-3264
URLアドレス / <http://www13.big.or.jp/madang/>
E-MAIL / madang@big.or.jp

AIDS HIV

エイズ（AIDS）とは、私たちの体に備わっている免疫機能が働かなくなる病気。健康なときにはかからないような病原体に対しても抵抗力を失い、深刻な病気を発症する。

HIV（ヒト免疫不全ウイルス）によって引き起こされるが、HIV感染そのものがエイズを意味するわけではない。エイズとは、HIV感染症の経過のうち、発病した状態に限定して用いられるもので、**HIV感染=エイズではない**ことを正しく理解しておきたい。1999年末現在、世界では、約3,360万人の人々がHIVに感染しており、日本でもエイズ患者数、HIV感染者数ともに増加する傾向にある。

エイズに対する正しい知識と理解をもとう。

みなさんは「エイズ」と聞いてなにを思い浮かべますでしょうか。「怖い、うつる、死ぬ病気」など、否定的なイメージを連想するかもしれませんね。多くの方がエイズについて正しい知識がないためにパニックになり、むやみに恐れたり遠ざけようとするのです。しかし、患者や感染者の増加が指摘されるなか、あなたの身近な人がHIVに感染したとしても不思議ではありません。まずは、一人ひとりが正しい知識と理解を持つこと、それがエイズに対する誤解や偏見をなくすことにつながるのです。

たとえHIVに感染したからといって、すぐにエイズになるわけではありません。感染してから10年前後で発症することが多いといわれていますが、最近の医学の進歩により、エイズの発症を遅らせることが

可能になりました。もちろん、エイズを発症していないときは、仕事や学校において健康な人と何ら変わりなく日常生活を営むことができます。また、HIVは、性的接触以外の日常行為で感染しないということを十分に理解しておくことが大切です。

もしも、自分の家族や友人、恋人がHIVに感染したとしたら、あなたは何かができるでしょうか。平成10年4月から、HIV感染者にはその障害程度によって身体障害者手帳が交付されることになり、更正医療の給付やホームヘルプサービスなどさまざまな福祉サービスが受けられるようになりました。しかし残念ながら、エイズに対する差別や偏見はいまだに根強く、感染者や患者は不安や孤独を抱えていることが多いものです。プライバシーの保護に努める、精神的な支えになってあげること以外にも、HIV感染は身近な病気であることを認識し、これまでと変わらない態度で接することが大切だといえるでしょう。

もっとエイズを理解するために

学校や電車の中でだれかの隣に座ってもうつりません。

咳やくしゃみなども大丈夫です。

握手や抱擁、軽いキスなども大丈夫です。

プールで泳いだり、入浴やシャワーなども大丈夫です。

皿やグラスなどの食器を一緒に使ってもうつる心配はありません。

HIVは患者や感染者の血液や精液、リンパ組織などに含まれますが、涙や汗、だ液などにはほとんど含まれていないので、日常的な接触で感染することはありません。また、蚊やノミなどを媒介とした感染もありません。

まず、一人ひとりがエイズやHIVに対する認識を改めることから始めましょう。

エイズ相談窓口

- ・各行政区の保健所 エイズ・STD（性感染症）相談窓口
- ・京都市保健福祉局 保健衛生推進室 地域医療課 TEL.222 - 3421
- ・（財）エイズ予防財団 TEL.0120 - 177 - 812（月～金 / 10時～13時、14時～17時）
エイズに関連するホームページ
- ・京都市衛生公害研究所 ~京都市のエイズ情報を満載~
<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/eikouken/index.html>



京都市障害者スポーツセンターは、障害のある人のスポーツやリクリエーション活動の拠点として設置された施設。障害者の優先利用と同時に幅広い利用者の拡大をすすめています。

障害のある人もない人も、共に心地よい汗を流せます

パラリンピックや車いす駅伝など、障害者スポーツの存在が定着しつつある昨今。京都市障害者スポーツセンターは、昭和63年京都市国体に続いて開催された、全国身体障害者スポーツ大会の水泳会場としてプールがオープン。平成3年には体育館や各種研修施設が開設されました。

京都市の障害者スポーツの拠点として年間約13万人の利用があり、機能回復のリハビリに、あるいは競技者として、各種大会を目指したりと、様々なスポーツを楽しん



プール

でいます。競泳、水中ウォーキング、そして障害者シンクロナイズドスイミングなど利用者に人気の高いプールから、体育館には体操、卓球、バレー、アーチェリー等に対応した設備があります。また重度体育室という、重い障害のある人や感覚機能の発達を促すための設備もあり、天井から吊るされたハンモックや大きなマット、大風船などで体を動かす楽しさを味わえるようになっています。トレーニングルームでは、障害のある人もない人も一緒に爽やかな汗を流し、それぞれの自分の体調に合わせたスポーツの楽しみ方ができる施設として好評です。

その中で、当初画期的な試みとして注目されたのが親子更衣室。例えば知的障害のある成人男性の着替えを母親が補助する場合、母親は男子か女子かいずれの更衣室を利用すべきか戸惑うとの声が多くありました。そこで個室のような更衣室をつくり、異性間で利用できるようにしたのです。このほか点字案内図はもちろん、身体の種類な障害に対応できるように、和・洋トイレの便器の設置方向を工夫するなど、館内は利用者に対する配慮が



重度体育館

あちこちにみられます。

センターではスポーツ教室も行われ、障害の種別によらず参加できます。また研修室を使つての琴や華道などの文化事業も行われています。

こうした教室等は障害のある人が対象ですが、施設の利用は一般開放しており、プールは毎週木曜日、その他の施設は空きがあれば利用できます。また障害のある人の介助など

を行う登録ボランティアも募集しており、2日間の研修後に施設内での介助やスポーツの相手、イベントスタッフ等として活躍されています。

最近ではテレビ等で障害のある人がスポーツを楽しむ光景を目にする機会が増えました。スポーツをしたい気持ちはだれも同じです。補助や設備が整えられることで、障害のある人もない人も共に味わえる爽快感…。難しく考えなくても、スポーツを楽しむ中で互いを理解する気持ちはきっと生まれるはず。まずは一度、センターで気持ちいい汗、流してみませんか。

京都市障害者スポーツセンター

休館日 / 毎週火曜日・毎月第3金曜日

〒606-8106 京都市左京区高野玉岡町5番地

電話 / 075 - 702 - 3370

FAX / 075 - 702 - 3372

訂正とおわび / Vol.5で紹介しました京都市国際交流会館に誤りがありましたので訂正しおわび致します。x(財)京都市国際交流会館 ○京都市国際交流会館

編集後記 12月は「人権月間」です。日々の生活のなかでの「人権」について考えてみませんか。たとえば、迷惑駐輪や電車、バスでの携帯電話の使用など。私たちの思いやりの欠けた行動によって困っている人はいないでしょうか。21世紀は、新しい時代を担う子ども、そして私たち大人も全ての人が笑顔で暮らせる社会にしていきたいですね。(編集担当K) 本誌に対するご意見、ご感想を右記までお寄せください。この情報誌は、年3回(5月、8月、12月)発行します。

ひと・まち・ロマン  元気都市・京都

発行日 平成12年12月1日

発行 京都市文化市民局人権文化推進部人権文化推進課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る

☎075(222)3381

京都市印刷物第120691号

この情報誌は、区役所・支所の地域振興課、市役所の市政案内所ほかで配布しています。郵送をご希望の方は、返信用切手(140円分)を同封のうえ、京都市人権文化推進課までお申し込みください。